

タウンマガジン 「むかいしま だいすき」第3号発行

「向島まちづくり情報発信グループ」（神門正和代表）は、今年4月にタウン・マガジン『むかいしま だいすき2021 SPRING』号を発行しました。

12ページ建てオールカラーで、2019年発行の創刊号、2020年発行の第2号に続く、第3号です。

京都市の「向島ニュータウン・地域団体活動ステップアップサポート事業」（2021年度より廃止）と、事業者のみなさんの広告掲載による協力もあり無料で頒布しています。

5千冊発行され、伏見区役所、向島図書館、伏見中央図書館、向島郵便局、向島四ッ谷池郵便局、向島地域の飲食店、事業所などに置いていただいています。



「向島駅前・青空朝市」は、 毎月第3日曜日に開催

NP0法人「向島駅前まちづくり協議会」（福井義定会長）主催の「向島駅前・青空朝市」は、毎月第3日曜日の朝10時～11時30分に、同協議会が「ローソン伏見向島駅前店」の駐車場をお借りして開催されています。

「朝市」には、地元巨椋池干拓地で農業経営を行う「中嶋農園」、「高宮農園」が朝採り新鮮野菜を直売。天然酵母を使ったパンなどをつくり販売する



地元のお店「イルチエロ」が直売しています。

コロナ禍の中でも感染防止対策を行い、多少の雨天の日も休まず開催。

地元のみなさんらに、「新鮮で安い」と好評です。

多文化共生のまち向島！

向島には、いろんな国出身の方が住んでおられます。

「向島まちづくり情報発信グループ」のメンバーが、向島ニュータウンにお住まいの日系ペルー人のお母さんにインタビューをさせていただきました。

お母さんのテレサ・タマナハ（玉那覇）さんは、30年ほど前、日本に先に来ていたお兄さんの勧めで、27歳のとき日本にられました。

祖父母が沖縄出身なので日本とペルーがルーツですが、日本語ができなかったこともあり、心細かったそうです。

来日した夜、空港からバスで行った宿舎で、窓をあけてみると周囲は真っ暗、一面の田んぼ、すごい蛙の声。寮の居室に一人でいられず、一緒に来た親戚の人とロビーで抱き合ってたのだとか。



テレサ・タマナハ（玉那覇）さん

この最初の職場が、「宇治田原カントリークラブ」でした。それから6年、ゴルフ場でキャディーとして働きながら、自力で日本語を勉強し、ペルーに置いてきた幼い娘二人と一緒に暮らすために頑張りました。

ようやく、子どもたちを呼び寄せましたが、「子ずれでは寮生活はできない」と転職し苦労続き。

10年ほど前には大病もしましたが、持ち前の明るさとファイトで乗り切りました。子どもも孫もみんな元気に日本で育ちました。

テレサさんは、「職場や近所の人たちと話して日本語が話せるようになった。京都に来てよかった。今はもう日本に骨を埋める覚悟」だそうです。